日本保育者養成教育学会　ニューズレター

■第6号■

The Japanese Society for the Study on Hoikusha Education

2022 年 9 月 2 日発行　編集・発行　日本保育者養成教育学会

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2-39-2-401 (株)ガリレオ学会業務情報化センター内

日本保育者養成教育学会の新たな扉が開く

第 2 代会長に就任して―メガトレンドと保育者養成教育―

日本保育者養成教育学会
会長　石川昭義(仁愛大学)

2022(令和 4)年度の前期が一段落しようとしている今、ちょうど自分の担当科目である「保育原理」の筆記試験の採点を終えました。正答率の低い設問を見るたびに、授業での説明が不十分だったのか、設問自体が悪いのか、いや学生が勉強しなかったからなのか…、採点は自ずと自らの FD 活動になって返ってきますが、その気持ちたるやあまり良いものではありません。

この授業で学生は何を学んだのか、それは在学中あるいは保育者として、今後どこでどのように生かされるのだろうか。保育者養成に携わる教員は、いつもこのように自問したり思いを馳せたりしながら学生と向き合っているのだと思います。

私は、本年 4 月、初代会長の小川清美先生を継いで、2 代目会長に選任されました。思いがけないことでしたが、私は素朴にこれからの養成教育のあり方を会員の皆様と一緒に考え、その研究を活性化させたいと思っています。

この 2 年半以上にわたるコロナウイルス感染症の影響は、これまで当り前のように行ってきた授業や学外実習を一変させました。2023(令和 5)年 4 月に「こども家庭庁」が新設され、「こども基本法」が施行されます。人口減少地域における保育の提供体制も課題です。教育のあり方そのものが、「何を教えたか」から「何を学び、身に付けることができたのか」という学修者本位の教育への転換が求められてきます。そして、ロシアによるウクライナ侵攻の現実も直

視しなければなりません。

こうしたメガトレンドに対して、保育者養成教育は新しい局面に入るのではないかと考えています。大きな変革を機に、子どもの最善の利益を担う次代の保育者養成教育とはどうあるべきか、あるいは養成教育自体の質の向上をどのように図るかを会員の皆様と大いに議論していきたいと考えています。

この学会は、平成 28 年 3 月に発足し、今年で 7 年目に入りました。私は、発足以来のご苦労と実績に敬意を表するとともに、新たな役員に加わっていただいた新体制のもと、合理的な運営を目指しながら、なお一層の学会の発展に尽力していく所存であります。皆様のお力添えを賜れば幸いです。どうかよろしくお願い申し上げます。

保育者養成教育のこれから―保育・保育者の未来を語る―

日本保育者養成教育学会
副会長　内藤知美（田園調布学園大学）

子どもや保護者を取り巻く環境が変化し、保育者に求められる事柄が多様化・複雑化しています。その変化に押し流されず、子どもや保護者に真摯に向き合える、高度な専門性と豊かな人間性を備えた保育者を養成するよう日々努めながらも、教えるべきことが膨大になる中で、時に、「保育の楽しさ」や「子どもといる豊かさ」を伝えられているだろうかという問いが生まれてきます。

近年、少子化も相まって、保育者を志す学生が減少しているとの話が聞かれます。コロナ禍において、保育者の役割の重大さが指摘される一方、その激務がクローズアップされたことも要因の一つでしょう。保育者養成教育とは本来、学生が保育者としての将来に夢や希望を抱き、子ども理解や保護者理解を深めながら、自身の成長を実感し、学びを進める教育を行うことだと考えます。

次代の保育・保育制度のあり方を探究し、養成教育研究の質を高めるとともに、養成教育と保育実践に関わる人々の協働によって、「保育・保育者の未来」を前向きに語り、発信していくこともまた本学会の責務であると考えています。

会員の皆様のご意見やご提案等を活かした学会運営に努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

日本保育者養成教育学会研究助成について

研究助成選考委員会
委員長　大橋喜美子（大阪総合保育大学）

当学会では、保育者養成教育に関する研究を行い、保育者養成教育の発展に寄与することを目的とした、様々な活動を展開しています。その一環として、保育者養成教育に関する研究事業に一層の促進を図るための、研究助成を実施しています。

2022 年度は、グループ研究 1 件、個人研究 3 件が採択されました。研究成果は 2023 年度の第 8 回研究大会において発表されます。

2023 年度の申請に関わる研究助成要項は、改めてホームページ上でご案内をします。

本学会における研究助成が「保育実践学と保育者養成教育学※」へと、更なる発展ができますよう、保育所、幼稚園、認定こども園、施設、その他保育に関連するみなさまと研究者が共に深く志向しながら、本研究助成の目的が達成できることを願っています。是非、この機会を利用して、研究助成応募にチャレンジしてください。

研究テーマは、本研究助成の目的に沿った内容であれば自由です。草創期の保育実践と保育者養成教育に関すること、海外における保育者養成教育に関すること、近年における IT の活用と保育者養成教育に関することなどなど、幅広い分野も含めて先生方のご専門を発揮していただけることを期待しております。そして、現代に生きる私たちが、改めて保育実践学と保育者養成教育学について、エビデンスを備えた研究としての「学」を進めていきましょう。

2023 年度には、多くの先生方の応募をお待ちしております。

＊参考　2022 年度募集要項
http://www.h-yousei-edu.jp/download/20220401 doc4.pdf

※小川博久「保育者養成（教育）学とは何か（序説）　ーその中核としての保育実践理論の構築ー」日本保育者養成教育学会 ニューズレター第3号（2019）　学会ホームページトップ画面（機関紙⇒ニューズレター）

第７回 研究大会に向けて

第７回研究大会
実行委員長 椛島香代（文京学院大学）

日本保育者養成教育学会 第７回研究大会は、以下の日程、方法で開催する運びとなりました。

開催日：2023（令和5）年３月５日(日)【web 開催】
開催校：文京学院大学

今年度の研究大会は、新型コロナの第７波収束がいまだ不透明なため、オンラインでの開催とさせていただくことになりました。遠隔授業や会議でオンラインを活用することも増え、オンラインの活用にも抵抗感が減ってきていること、国内外どこからでも参加が可能であること、など利点を生かしてまいります。一方で、討論などが活発に行われるよう、方法も工夫してまいりたいと考えております。

今年度は「対人援助職の〈しごと〉を捉え直す－保育職の魅力を伝えるために－」というテーマを掲げました。若い世代の子育てや教育・保育に対する意識、高大連携活動など中高校生に子どもや保育の魅力を伝える方法、養成校における対人援助職の魅力を伝える授業方法、対人援助職を目指すキャリア教育・実習指導など皆様の研究成果をご発表いただき、未来を担う保育者養成の在り方について議論する機会になればと存じます。

オンラインではありますが、実り多い研究大会になることを願って一同、準備してまいります。内容の詳細は第１号通信にてお知らせいたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

・・・

日本保育者養成教育学会 第7回研究大会

実行委員長 椛島 香代（文京学院大学）

◇開催日 2023（令和 5）年 3 月 5 日(日)【WEB 開催】

対人援助職の〈しごと〉を捉え直す―保育職の魅力を伝えるために―

第 6 回　研究大会を終えて

第 6 回研究大会
実行委員長　請川滋大（日本女子大学）

2022 年 3 月、第 6 回研究大会を無事に終えることができました。これもひとえに発表や参加をして下さった会員の皆さま、大会を支えてくれたスタッフ、大会運営を陰ながらサポートして下さった学会事務局の方々のおかげです。紙面をお借りしここに感謝申し上げます。ありがとうございました。

第 6 回大会は集会型で実施したいと考えましたが、コロナの感染者数が増減を繰り返す状況でしたので、やむなく今回もオンラインの大会とさせていただきました。そんな中、大会企画シンポにご登壇下さった池田斗起子様（世田谷区保育課）、宮下佐知子様（世田谷区立南八幡山保育園・園長）には本学まで足をお運びいただきました（所属・肩書は大会当時のもの）。また前・会長の小川清美先生にも大学までお越しいただき、開会のご挨拶をいただきました。その際、配信に不備があり、小川先生や PC の前でご参加いただいていた方には大変失礼をいたしました。

大会テーマが「『つながり』を生かした保育者養成」でしたので、大会企画シンポでは先ほど紹介した世田谷区の行政の方、保育実践を統括している園長、そして養成校の教員に参加をしてもらいました。保育者養成を行う学校側と、行政、園がどのように「つながり」ながら養成を進めているのか、その一端についてお話いただきました。

また大会全体を通して、様々な方々との「つながり」を改めて感じたところです。今回の大会でいえば、養成校内の教員同士のつながりはもとより、卒業生とのつながり、事務方そして本学をサポートしてくれている外部業者とのつながり、大会に広告を出して下さった出版社とのつながりと、本当に様々な方々に支えられてこういった大会は成り立っているのだと認識しました。皆さま、本当にどうもありがとうございました。また、来年度以降の大会を運営して下さる方々、どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記　　新体制となった広報委員会

この度、新たに広報委員会のメンバーが理事会にて決定しました。任期は 2 年となります。より一層読んでいただけるニューズレターを配信したいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

日本保育者養成教育学会　広報委員
〇石井章仁（大妻女子大学）　　遠藤純子（昭和女子大学）
小久保圭一郎（倉敷市立短期大学）　　櫻井裕介（中村学園大学短期大学部）